

領域・小問ごとの分析	対 策 の 視 点
<p>答が多い。</p> <p>13. 北極星の名称と北斗七星・カシオペア座から北極星を見つけること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率72%ではほぼ理解されているが、「北斗星」などというあいまいな誤答が目立つ。</li> </ul> <p>14. 星の動きの観測のしかた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率は77%ではほぼ理解されている。</li> </ul> <p>15. 星座早見盤の正しい使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 北の星を調べるという問題であるが、南の空の調べ方を選んだ誤答が多く、正答率も36%ときわめて低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 北の空の星座として、北極星・北斗七星・カシオペア座を機会をとらえて、実際に夜間観測させる指導が必要である。</li> <li>◦ 観測方法についてはほぼ理解されているので、これをもとに家庭での観測学習を促すような積極的な指導も望まれる。</li> <li>◦ 星座早見盤は、星の観測には欠かせないものなので、一人ひとりが実際に手に持って調べられるような学習方法の工夫が必要である。</li> </ul>
<p>領域 B (物質とエネルギー)</p> <p>16. 光の屈折と反射</p> <p>(1) 光の反射</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率は67%である。</li> </ul> <p>(2) 光の屈折の名称</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率71%ではほぼ理解されているが「反射」と混同した誤答が見られる。</li> </ul> <p>(3) 光の屈折</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率は32%ときわめて低くよく理解されていない。</li> </ul> <p>17. とつレンズ</p> <p>(1) とつレンズの軸に平行な光が集まる位置の名称(焦点)</p> <p>(2) 焦点の位置はレンズによって決まってくる。</p> <p>(3) 光の「直進」と「屈折」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ (1)、(2)、(3)ともに6年より移行される内容で学習が不完全なためか正答率はそれぞれ23%、46%、34%ときわめて低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 光の直進・反射・屈折は光領域での重要な指導事項である。児童自身が実験・観察を通してその規則性を発見できるような指導の工夫が必要である。</li> <li>◦ レンズは、小学校5年生だけで、中学校・高校では扱わない。しっかりとした基礎概念をとらえさせておきたい。        教具を工夫したり、一人ひとりの児童が実験観察を通して、事象のきまりを見いだせるような配慮が望まれる。</li> </ul>